

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価	次年度への主な課題
事務	来客・生徒への迅速な対応	来客・生徒の対応を親切的確に行う	A	こまめな節電・節水に努める不審者対策としての訓練を中高共に実施する。
	経費の節減に努める	節水・節電をことある毎に職員・生徒に呼びかける	B	
	不審者対策	学校への不審者の侵入を教員と連携し、その防止に努める	B	
教務	生徒の志望大学合格8割を目指したカリキュラム、授業、家庭教育のあり方を研究し、理系、文系、難関、国際、体育各コースの特徴を生かした、授業展開を確立する。	教員の教科指導力の向上を目指し、学年会、教科会、コース会、進路指導部との連携を図り、公開授業、生徒による授業評価を年2回行う	B	進路、広報、学年会と連携本学園の教育方針の周知徹底を図る。授業評価の実施を年2回に。5分前行動について、根気よく実施出来るよう方策を講じる。
		習得目標に沿った授業を徹底し、50分授業の中で落ちこぼれを出さないように、科目担当者間の連携を密に研鑽を重ねる	A	
		授業規範の徹底をはかり、毎学期毎の教育相談を充実させ、5分前行動を、職員が率先して行う	B	
		本学園の教育目標である、4つの資質「教養＝知識＋知恵」「倫理感」「文化力」「コミュニケーション力」を高めるための具体的方策を各科、コースと綿密な連携をとる	B	
		日程を明確にし、事前の議題集約と配布資料の有効活用にかかる	B	
中1・中2コース	まずは、中学校生活に慣れ、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用力をつける指導します。また、様々な学校行事や部活動を通して、学校の楽しさ、学ぶ意欲を感じる指導を行います。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図ります。	B	各教諭の授業実践力を高め、習得目標の完全達成を目指す。空手、英検の上位級(段)を目指す。
		全員が中1で英検4級、中2で英検3級以上取得を目標に指導します。	A	
		全員が中1で空手4級、中2で3級を目標に指導します。	A	
		月1回のコース会、学年会を開催し、効果ある授業、学校行事の精選、学級活動・部活動の活性化に取り組み、楽しい学校作りを目指します。	B	
中3・高1コース	内部進学生は、高校への接続をスムーズに行い、かつ発展的に高校課程を学習できるように、中学校が連携して指導をおこなう。外部進学生については、高2次までに、内部進学生と同レベルになるよう、学習指導を取り組む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図ります。	B	学力の中間層生徒の成績向上と全国模試における上位成績者の増加のため、習得目標の完全習得を目指す。また、中3・高1で連携して全員が本校の4つの教育方針での目標を達成できるように徹底して指導する。
		全員が中3で英検準2級、高1で英検2級以上取得を目標に指導します。	B	
		内部進学生は中3で空手2級、高1で1級以上の段位取得を目標に指導します。外部進学生は、高1で2級以上の段位取得を目標に指導します。	A	
		中学・高校間の教師の交流を促進し、中高間の教科・科目の連携を強化して大学進学に直結できる授業・わかる授業を指導・研究します。	A	
国立理系コース	生徒の学力向上のために、生徒・保護者への細やかな入試情報を提供し、生徒・教員・保護者三位一体となった受験対策を実施する。また、進路指導部と連絡を密にし、進路説明会や入試情報を提供する	理系大学の入試情報を収集し、コース・クラス単位での学習会を年2回以上実施する	A	研究会、研究授業の回数を増し、教員の授業力向上により「習得目標」の完全達成を実現する。必要に応じ、入試環境の変化に即したカリキュラムの見直しをする。
		教員の資質向上のための研究会や研究授業を開催する。	B	
		模擬試験等を利用し学力分析を行い、補講・個別指導に力を注ぐ	A	
		コース主催の保護者対象進路学習会を開催し、情報を共有する。	A	
国立文系コース	文系大学志望校合格を目指し、生徒の学力向上を全力でサポートする。また、保護者を対象に大学入試研究会 成績報告会を開催し、大学入試に必要な情報を共有する。	コース生徒の模擬試験ごとの科目別成績状況、志望校合格の可能性をたえずチェックし、弱点を発見し補強に努める	B	模試毎の成績結果による個人別学習指導をもう少し細やかに実施する。コース会を定期的に導入し情報交換と情報の共有を図る。
		生徒対象の入試勉強会と保護者対象の入試勉強会を年2回以上開催し、生徒・担当教員・保護者三位一体となった体制を確立する。	A	
		文系コースの2年次の生徒は、チェックテスト月3回以上実施し、課題ノートを作成させ基礎学力の定着を図る。	A	
		3年次は、10月までに主要3教科を優先し、早朝講座、課外補習、土曜講座を解説し、教科のセンターレベル8割以上取得をめざす。後期からは、全教科得点のアップを図る。	A	
		各学期3回以上の個人面談を実施し、個人の学力を把握し、効率的・効果的な学習方法を指導する	A	
難関コース	最難関・難関大学に8割以上の合格を目指す。そのために入試説明会を年3回以上開催し、入試情報を生徒、保護者と共有する。	最難関・難関大学の入試情報を収集、研究しコース担当者教員間で共有	A	前年度に比べて大幅にアップした難関大学への合格率をさらに高める。生徒個人の成績分析およびフォロー体制をしっかり構築する。志望学部・大学をさらに適正なものとするための進路指導。
		模擬試験、定期テストなどを分析し担当教員間で学力状況を的確に把握し場合に応じて補講、個別指導を実施する。	A	
		保護者対象と生徒対象の進路学習会を年2回以上開催し、生徒・保護者・教員間で情報を確実に把握し、学力向上に努める	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価	次年度への主な課題
国際文化コース	主に英語圏の外国大学か国内の英語を重要視している大学進学を目指す。2年次、3年次に進級するにつれ、英語による授業の科目、時間数を増やし、英語圏大学進学後は即戦力になる指導を実施する。	Toefl 対策、英検対策に力を入れ、英語力向上に努める	B	TOefl、英検対策は、ネイティブスピーカーをうまく活用できた。さらに生徒個々人の能力に応じたきめ細かい指導に徹したい。
		ネイティブスピーカーを十分に活用し、生徒の英語力向上に努める	A	
		英語圏大学の情報を収集し、広く生徒・保護者へ情報を提供する	A	
		英語を重視する国内大学へ進学希望する生徒の合格を目指し、補講・個別指導等を行う。	A	
体育コース	スポーツを通して、人間力と精神力を鍛え、学力を伸ばして、上級学校進学を目指す。各部とも県大会は勿論のこと全国大会上位入賞を目指す。	野球、柔道、テニス、ゴルフ、ボクシングの各部の指導は、適切に行われ、県大会、全国大会において上位入賞を果たしたか	A	文武両道を実践し、人間力指導を徹底して行いたい。
		朝の自習、読書指導、部活練習の学習は十分に行われたか	A	
		早朝清掃等のボランティア活動は十分に行えたか	A	
		進路指導、進路説明会等で進路部、学年会との連携を実施した。	A	
生徒指導	生徒指導のない学校を目指し、冲尚生らしい校風を構築するために、積極的な生徒指導を行い自立、自覚を持った生徒を育成する	生徒会を中心に学園祭、オープンキャンパス、体育祭、遠足等行事を取り組み学校行事の資質向上を図る	A	中・高の生徒指導の連携を密にし、服装・挨拶の指導と公共のマナーの向上を図る。
		学園の制服に誇りをもち、礼節を重んじ、授業活動等5分前に行動し、明るくキビキビした行動がとれるようにする	B	
		公共のマナー、交通安全マナー向上をはかり、学校周辺の朝清掃などボランティア活動にも積極的に関わる寛容な姿勢を醸成する	B	
進路指導	本人の趣味、能力、経済的状況を勘案し、「行ける大学」ではなく、「行きたい大学」への進路指導ができるように、各科、コースと連携を密にする。	学年会、コース会と連携し、生徒、保護者への進路相談会を年3回以上開催する。	B	模擬試験のデータの分析をコース会、教科会と連携して密に行う。
		担任・副担任と連携し、年3回の生徒・保護者面談を実施する。そのため、面談資料を作成し、供する。	B	
		全国模擬試験を開催し、その結果のデータを作成し、各科、コースに担任に提供する。	B	
		必要に応じて外部講師を招聘し、大学説明会、出前講座等を開催する	A	
		各種研究会に参加し、データを収集し、各科、コース、担任に還元する	B	
広報	関係機関と連携し、広報活動を活発に行い、本学園の教育方針の広報・啓蒙に努め、生徒募集に寄与する。	小学校・中学校・塾・予備校と頻りに連絡をとり本校教育について啓蒙を深めた。	A	学校訪問の機会を増やし、本校教育の啓蒙周知を図る。オープンキャンパス等、本学園行事への集客力をさらに増大させる手だてをとる。
		本校教育を浸透させるために、学園祭・オープンキャンパス・体育祭等学校行事に積極的に係わり、学園来訪者等に広報・啓蒙に努める。	A	
		本学園HPを充実させ、学校案内の作成、PTA新聞を作成し、広報活動に努める。	A	
保健	生徒・保護者・教職員の心身の健康を図り、自己の健康管理意識の育成と自発的な健康増進を目指す。	専門的知識を身につけたカウンセラー、養護教諭とでカウンセリングを工夫しクラス担任と共にカウンセリングに当たり、生徒・保護者・教員の心身の健康にあたる。	B	カウンセラー研修会・講習会に積極的に参加し、専門的スキルアップを図る。
		心身の健康に関する相談を常時受け付け、生徒が充実した学校生活を送れるようにサポートする。	B	
環境美化	早朝清掃、全体清掃、日常の清掃作業を通して学校内外や学校周辺地域の環境美化を推進する。	清掃マニュアルやゴミ分別マニュアルを作成し、生徒・教職員の環境美化に対する意識の高揚を図り学校内外の美化に努める。	A	朝の早朝清掃等のボランティア活動への参加はある程度充実しているが、活動することの喜びを実感させ
		生徒会と共に美化委員会活動を活性化し、ゴミ処理・環境美化を実践する	C	
図書館	図書館を計画的に整備し、生徒の読書習慣の育成に努め、生徒の読書・学習の展開する場とする。	新刊図書を紹介、各クラスの貸し出し冊子数を月ごとにまとめ報告する。	A	
		「朝の読書」「学級読書会」等を通じ生徒の読書習慣を醸成する。	B	